

組織名	八幡まちづくり協議会
事業名	田んぼアート事業
新規・継続	継続（事業開始：平成20年度）
事業目的	八幡地区の活性化を図ることを目的として、地域内外の全員参加型で楽しみながら取り組むことが可能であるとともに、次代を担う子供たちに夢を与え、話題性と交流人口の拡大、さらには物産販売にも寄与できると想定され、プロジェクトを立ち上げ実施。
課題	田んぼアートを推進するにあたり、八幡まちづくり協議会代議員から選定し、プロジェクトチームを発足させメンバー25名の構成で推進している。田んぼアートの仕上がりには飛躍的な進歩の評価を受ける一方で、推進メンバー固定化、作業の属人化、高齢化が大きな課題となっている。又年々費用が膨らみつつあることも懸念される。メンバーの世代交代、手法の伝承・継承も今後の課題である。
実施形態	田んぼアートプロジェクトチーム、県工業技術センター、測量会社等の各種団体
実施主体	田んぼアートプロジェクトチーム、八幡まちづくり協議会

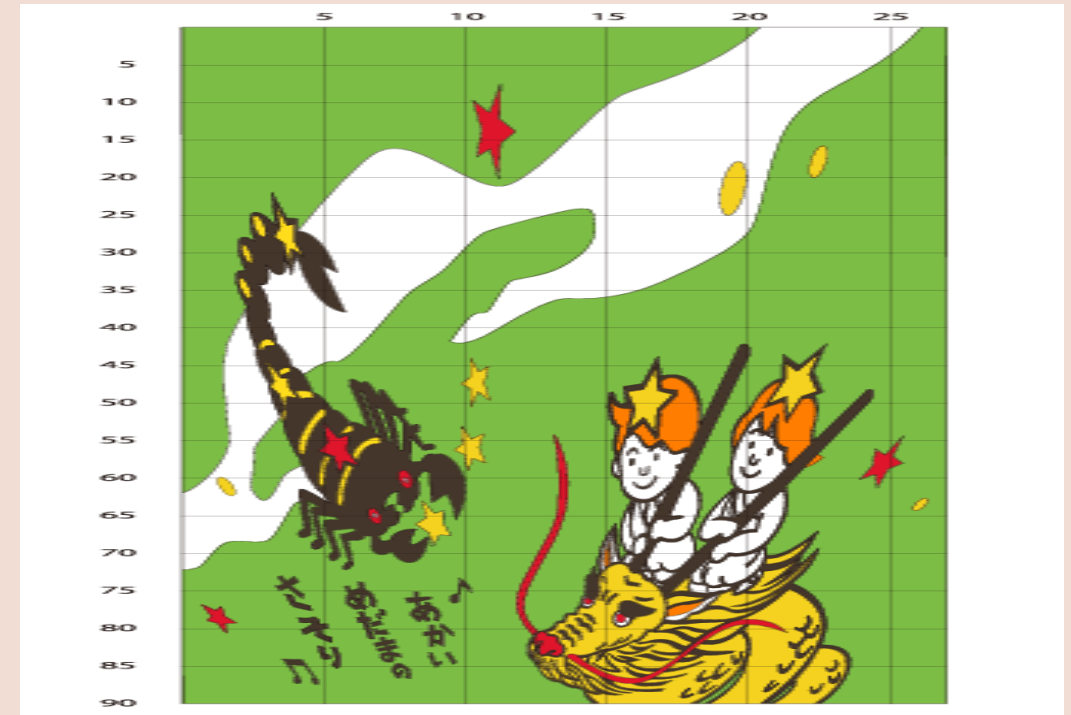
事業の流れ

1. **図案の作成**：2011年から花巻の偉人宮沢賢治の童話を題材にデザインにしている。それを基に遠近法測量図（右図参照）を作成する。



遠近法測量図

岩手県工業技術センター様にて作成



工夫・留意点

原画は協議会のメンバーが作成。原画を岩手県工業技術センターにてデータ化し、測量会社がそれを基に面積計算、測量点数（杭の数）に落とし込む。面積から苗箱数を算出している。

効果や反省点

図案の作成時は遠近測量法を意識した作りを行っており、データ作成の効率化に大きく寄与している。しかし原画作成者は属人化となっており作成者の負担は大きい。

2.種まき/育苗：古代米とひとめぼれを使用



3.測量での位置出し：杭の設置/絵柄のわく取り（令和6年は、杭を約1,600本使用）



工夫・留意点

古代米は紫、黄色、緑、赤、白、オレンジの6種類で青森県の自治体から購入している。種の提供先とは生育について情報交換を行っており不測の事態に備えている。又不測の事態に備え、県内田んぼアート実施団体とも情報交換し種苗の相互援助も可能としている。

効果や反省点

杭については、測量時の作業量、費用に大きく関わってくるため、事前に図柄の簡略化、杭打ちの仕方などを業者と詰める必要がある。苗箱数も経験値と計算式で算出するが植え方次第で大きく異なる。

4.田植え（絵柄部分）：スタッフによる古代米の植え付け (6/1)



5. 田植え（背景部分）：みんなでひとめぼれの植え付け (6/2)



工夫・留意点

全体完成をイメージし苗の植え方、厚み等を高台でチェックしながら指示し進めており、作業の効率化正確性の向上を追求し、作業を分担し楽しみながら活動している。（総勢延べ人数80名ほど）

効果や反省点

田植え体験作業として一般の方々と田植えを実施し、地域交流、世代間交流を図ることができている。しかし、田植えの時期や参加方法等周知の仕方を考慮しなければならない。（SNS等を使用する必要あり）

6. 見頃を迎えた田んぼアート：見頃は、6月末～8月中旬



7. 稲刈り（背景部分）：一般参加含め65名で稲刈り（10/6）



工夫・留意点

より多くの方に見て頂くため、人が集まる場所へのチラシ設置。広報誌への掲載や報道機関への情報提供や景観の整備（のぼり設置や周辺の草刈）を実施している。

効果や反省点

チラシ配布は年間5,000～6,000枚となっており、多くの鑑賞者の評価をいただいている。SNS等を使用し逐次状況を掲載したい。

8. 脱穀作業：天気のよい10月下旬に実施(10/26)



9. 「かかし祭り」



工夫・留意点

ひとめぼれ及び古代米の一部は脱穀し、玄米／精米化し、まちづくり協議会のイベントで使用している。一昨年は八幡小学校150周年に贈呈、昨年は福祉部会で「一人暮らしの高齢者訪問」等に活用している。

効果や反省点

田んぼアート会場には保育園、小学校、地域住民から提供された「かかし」も展示しており道行く人の目を楽しませている。

最後に田んぼアートに関わり思ったこと。

田んぼアートは、稲作を中心として栄えてきた地区の農業シンボルを未来に伝える為、自然環境に配慮し、後世に残す農業人を育てた宮沢賢治精神に基づき、賢治作品にちなんだ絵柄を使用している。

子供からお年寄りまで、親しみをもって年間を通じて触れ合えるきっかけづくりとなっており、地元だけでなく遠くからの見学者もあり、注目を集めるようになってきている。

農業伝承は古来から地域住民の心と心をつなぎ、故郷として深く記憶に刻まれる。「田んぼアート」は温かな思い出として残っていく、住民参加型のイベントとして重要な事業である。

ひいては、偉人の功績を再確認し、心の成長、豊かな感性、人間力を高めることを将来の展望として期待しながら、できるだけ長く継続できればと思う。

最後に、世界共通の平和への願い

『世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない』

工夫・留意点

効果や反省点



平成23年 銀河鉄道に夢と希望を乗せて



平成24年 どんぐりと山猫



平成25年 なめとこ山の熊



平成26年 ふくろうの親子



平成27年 鹿踊り



平成28年 セロ弾きのゴーシュ



平成29年 注文の多い料理店



平成30年 風の又三郎



令和1年 雪わたり



令和3年 やまなし



令和4年 宮沢賢治



令和5年 SL銀河